

学位論文審査の結果の要旨（課程）

学位論文審査申請者氏名	板倉 浩幸
学位論文名	変更前 小学校における森林 ESD の可能性 変更後 小学校における森林 ESD の可能性－北海道下川町を事例に－

学位論文審査終了年月日	学位論文審査の結果
令和 5 年 1 月 7 日	合格 ・ 不合格

学位論文審査の結果の要旨は次ページ以降（別紙記載要領により作成のこと。）

学位論文審査委員	主査（自署） 降旗 信一	副査 大倉 茂
	伊丹 一浩	秋山 満
	高橋 美貴	

※令和 2 年 4 月入学 農林共生社会科学専攻 農林共生社会科学大講座	
学位論文審査申請	令和 4 年 11 月 30 日
学位論文審査委員の選出	令和 4 年 12 月 12 日
学位授与の可否の議決（可・否）	令和 5 年 3 月 1 日

学位論文審査の結果の要旨

板倉浩幸

本論文は、森林 ESD を『持続可能な社会の構築の観点で行われる「森林および木」を題材とした教育』と定義し、北海道下川町を事例地として、小学校での可能性について明らかにしたものである。板倉氏は 30 年以上にわたる小学校での環境教育実践の中で得られた知見と本研究課題への着想を整理した上で森林・林業を地域の持続的発展の核と位置付けている北海道上川地区および下川町を調査地として選び、地域の林業行政関係者、学校教育関係者、NPO 関係者らへの文献調査、ヒアリング調査、質問紙調査を行った。とりわけ森林 ESD 開発ツール「SET」を独自に開発した上で、その実装可能性について学校関係者への質問紙調査を実施し、その可能性と課題を踏まえて具体的な提言を行ったことは地域教育の発展に貢献すべき点として高く評価できるものである。なお、本論文では北海道下川地区における事例のみを分析対象としたことから、審査会において博士論文題目に副題の設定を求めた結果、副題を設定したものである。

以上のように、本論文は、多くの新しい知見を有すること、論文の内容、構成および公表論文数などから、本学位論文審査委員会は、全員一致して、本論文が博士(農学)の学位論文として十分価値があるものと判断し、合格と判定した。